

北海道産主要セリ科検索図譜（その1・大型種）

一葉で見分ける植物2一

渡辺 修

001-0017 札幌市北区北17条西3丁目恵洋荘3 さっぽろ自然調査館

はじめに

筆者は先に「葉で見分ける高山植物」としてツヅジ科の検索図譜を発表した（渡辺1995）。今回はその続編として、セリ科の検索図譜を作成したので紹介したい。

セリ科に属する植物はサイコの仲間（ミシマサイコ属）やチドメグサの仲間（チドメグサ属）を除けば、葉の形や花序の形に共通の特徴を持っており、一つのグループとして認識しやすい。しかしセリ科は海岸から高山帯まで幅広い環境に出現し、北海道内に約40種と種数も多い。種の識別がやっかいな分類グループであると言える。

セリ科の分類は一般に属レベルでは果実の形態に着目して行なわれる（北村・村田1961；北川1982）。前報でも述べたように採取・解剖が出来ない（行なわない）場合や対象個体に花・果実がない場合を考えると、葉の形態だけで検索できることも重要である。本稿では、前報と同様にイラストを多く用いて分かりやすさに重点をおいた検索図譜を作成し、図鑑写真では判別しにくい葉の形態を全対象種について掲載した。また、セリ科の識別基準である果実の形態を用いた果期・繁殖個体の検索図譜も作成した。これは、各種図鑑類においても果実図が不完全であったり、種レベルまでの検索が見られなかったりしたためである。この果実検索図譜も外部形態のみを使用し、野外での同定が可能となるよう努めた。

なお、今回の報告では、他の属と形態が大きく異なり識別の容易なチドメグサ属とミシマサイコ属の種は検索には含めず、ミヤマウイキョウ・ホソバトウキなど分布の限られる種も除いて、24種32種（3種の帰化種を含む）を対象とした。これは知床半島で確認されている26種（鮫島・佐藤

1981；丹羽・渡辺1997）全てを含んでいる。また北海道産の普通種の大部分をとりあげているので、他の地域でも利用可能と思われる。

セリ科について

1.概要

セリ科植物は独特の芳香を持つものが多く、古来から人類に利用されてきた。ニンジン・セロリ・パセリ・ミツバ・アシタバ・セリ等は食用、クミン・コリアンダー（香菜）・キャラウェイ・アニス等は香辛料用、ウイキョウ（茴香）・ノダケ（前胡）・トウキ（当帰）・サイコ（柴胡）等は薬用として広く用いられてきている。また、その一方でドクゼリやドクニンジンなどのように強い毒性を持つものも知られている。

世界に約275属3000種が知られており（北川1982）、日本では北村・村田（1961）が33属78種4亜種16変種5品種（帰化種1種含む）、北川（1982）が31属84種3亜種11変種5品種（帰化種1種含む）を記載している。北海道内では伊藤ら（1985）が24属45種13変種13品種（帰化種3種含む、栽培種除く）を整理・記載している。この中で北海道内での確認が疑わしい種や希と思われる種を除いた北海道産主要種41種1亜種3変種を表1に示した。

2.形態的特徴

セリ科に共通する特徴として、子房下位で2室に分かれ、萼・花弁・雄蕊が5数性であることが挙げられる（北川1982）。また果実は、柄によってつながれた2つの分果によって構成され、それぞれに種子が1つずつ入る「双懸果」という形態をとっている（図1）。

セリ図鑑対象種一覧

図1. 北海道のセリ科 UMBELLIFERAE の主要種一覧表

種番号	検索図鑑番号	種名	属名	道内分布	大きさ cm	学名
1		オオチドメ	チドメグサ	●	-10	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>
2		ヒメチドメ	//	道南・石狩	-10	<i>Hydrocotyle yabei</i>
3		ホタルサイコ	ミシマサイコ	道南・道東	40-80	<i>Bupleurum longiradiatum</i>
3'		コガネサイコ	//	●	20-40	<i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>shikotanense</i>
4		ホソバノコガネサイコ	//	日高・夕張	20-50	<i>Bupleurum nipponicum</i> var. <i>yessoense</i>
5		レブンサイコ	//	●	20-50	<i>Bupleurum ajanense</i>
6	1	トウヌマゼリ	ヌマゼリ	●	60-100	<i>Sium suave</i>
6'		ヌマゼリ	//	●	60-100	<i>Sium suave</i> ssp. <i>nipponicum</i>
7		ムカゴニンジン	//	道南・道東	30-100	<i>Sium ninsi</i>
8		タニミツバ	//	胆振・道東	60-90	<i>Sium serra</i>
9	2	ウマノミツバ	ウマノミツバ	●	30-120	<i>Sanicula chinensis</i>
10	3	ミツバ	ミツバ	●	30-90	<i>Cryptotaenia japonica</i>
11	4	カノツメソウ	カノツメソウ	●	50-100	<i>Spuriopimpinella calycina</i>
12	5	マルバトウキ	マルバトウキ	●	30-100	<i>Ligusticum hultenii</i>
13	6	ハマボウフウ	ハマボウフウ	●	5-50	<i>Glehnia littoralis</i>
14	7	カワラボウフウ	カワラボウフウ	●	30-90	<i>Peucedanum terebinthaceum</i>
15	8	ハクサンボウフウ	//	●	30-90	<i>Peucedanum multivittatum</i>
15'		エソノハクサンボウフウ	//	狩場・珠イ	20-80	<i>Peucedanum multivittatum</i> var. <i>linearilobum</i>
16	9	イブキボウフウ	イブキボウフウ	●	30-120	<i>Seseli libanotis</i> subsp. <i>japonica</i>
17	10	エソボウフウ	エソボウフウ	●	20-70	<i>Aegopodium alpestre</i>
18	11	イワミツバ	//	帯化(道央)	20-90	<i>Aegopodium podagnaria</i>
19	12	セントウソウ	セントウソウ	●	10-30	<i>Chamaele decumbens</i>
20	13	ハマゼリ	ハマゼリ	道南・日高	10-50	<i>Cnidium japonicum</i>
21	14	ゼリ	ゼリ	●	20-80	<i>Oenanthe javanica</i>
22	15	ヤブジラミ	ヤブジラミ	●	30-70	<i>Torilis japonica</i>
23	16	ヤブニンジン	ヤブニンジン	●	40-60	<i>Osmorhiza aristata</i>
24	17	シラネニンジン	シラネニンジン	●	10-30	<i>Tilingia ajanensis</i>
25	18	イブキゼリモドキ	//	●	30-100	<i>Tilingia holopetala</i>
26		ミヤマウイキョウ	//	大平山他	10-30	<i>Tilingia tachiroei</i>
27	19	ドクニンジン	ドクニンジン	帯化(道央)	50-160	<i>Conium maculatum</i>
28	20	ノラニンジン	ニンジン	帯化(●)	50-100	<i>Daucus carota</i>
29	21	ミヤマセンキュウ	ミヤマセンキュウ	●	40-80	<i>Comioselinum filicinum</i>
30	22	カラフトニンジン	//	●	10-30	<i>Comioselinum kamtschaticum</i>
31	23	ジャク	ジャク	●	80-140	<i>Anthriscus sylvestris</i>
32	24	ドクゼリ	ドクゼリ	●	100	<i>Cicuta virosa</i>
33	25	ミヤマトウキ	シシウド	●	20-80	<i>Angelica acutiloba</i> subsp. <i>ivatensis</i>
33'		ホソバトウキ	//	夕張・珠イ	20-60	<i>Angelica acutiloba</i> subsp. <i>lineariloba</i>
34	26	エソノヨロイグサ	//	●	100-200	<i>Angelica sachalinensis</i>
35	27	オオバセンキュウ	//	●	60-180	<i>Angelica genuflexa</i>
36	28	エソニュウ	//	●	-300	<i>Angelica ursina</i>
37	29	アマニュウ	//	●	80-200	<i>Angelica edulis</i>
38	30	エソノシシウド	エソノシシウド	●	80-150	<i>Coelopleurum gmelinii</i>
39		エソヤマゼンゴ	//	大巻日高他	30-70	<i>Coelopleurum multisectum</i> form. <i>trichocarpum</i>
40	31	オオカサモチ	オオカサモチ	●	-150	<i>Pleurospermum camtschaticum</i>
41	32	オオハナウド	ハナウド	●	100-200	<i>Heracleum lanatum</i>

※種番号は基本変種につけた。「数字」は亜種を示す。学名は基本的に北村(1981)に基づいた。

※道内分布の●は全道を示す。分布は主に伊藤ら()によった。

※大きさ・漢字名・別名は各種図鑑を基に代表的なものを挙げた。

※図鑑掲載番号の文献名; 環境庁『植物目録』 / たくぎん総研『北海道高等植物目録』 / 平凡社
 滝田謙讓『東北北海道の植物』 / 原松次『北海道植物図鑑』 / 北大図書刊行会『北

※図鑑掲載番号は「平凡社」はセリ科内の「属番号-種番号」、「保育社」セリ科内の種番号、その他は通し

セリ図譜対象種一覧

種 番号	検索 図譜 番号	漢字名	別 名	図鑑・植物リスト掲載番号								
				環境庁 リスト	拓銀 リスト	平凡社 図鑑	保育社 図鑑	東北海道 図鑑	原 図鑑	北海道 の花	札幌 植物	知床 半島
1		大血止	ヤマチドメ	39590	7949	(1-4)	3	134	713	570	612	272
2		姫血止	ミヤマチドメ	39610	7951	1-3	(6)		714		613	
3		紫葉胡	ホタルソウ	39190	791751	(8-2)	(12)	410	715	566		273
3'		黄金紫胡		39220	7919	(8-2)	(12)	(410)				
4		細葉黄金紫胡	エソサイコ	39240	7921	(8-3)	(13)					
5		礼文紫胡	チシマサイコ	39200	7922	8-4				664		
6	1	唐沼芹		39870	7972	(17-3)	(25)	425				
6'		沼芹	サウゼリ	39880	7973	17-3	25	(425)	99			
7		零奈子人參		39800	7970	17-1	26					
8		谷三葉		39850	7969	17-2	27		100			
9	2	馬三葉	オニミツバ	39780	7966	3-1	8	424	716	277	621	274
10	3	三葉	ミツバゼリ	39450	7939	9-1	15	416	720	267	607	275
11	4	鹿爪草	ダアゼリ	39900	7974	15-1	20		721	278	622	279
12	5	丸葉当帰	ハマトウキ	39620	7952	21-1	37	420	728	271	614	287
13	6	浜防風	ヤオヤボウフウ	39480	7944	24-1	36	418	727	269	610	285
14	7	河原防風	ヤマニンジン	39720	7962	30-2	54		732	275	619	295
15	8	白山防風	エソヤマゼリ	39700	7959	30-3	55			274	617	296
15'		蝦夷白山防風		39710	7960	(30-3)	(55)					
16	9	伊吹防風		39830	7968	22-1	35		726			
17	10	蝦夷防風		38750	7990	16-1	18	404	722	254	593	281
18	11	岩三葉		38760	7991	(16-1)			723	255	594	
19	12	仙洞草	オウレンダマシ	39310	7924	12-1	23	411	725	257	602	283
20	13	浜芹	ハマニンジン	39370	7928	19-1	31		98			
21	14	芹	ヤマゼリ	39630	7954	11-1	29	421	96	272	615	280
22	15	藜蘆	ノニンジン	39970	7983	4-1	14	427	719	281	625	277
23	16	数人參	ナガジラミ	39650	7955	6-1	16	422	718	273	616	276
24	17	白根人參		39930	7976	23-2	33	426		279	623	286
25	18	伊吹芹擬	ニセイブキゼリ	39940	7980	23-3	32			280	624	
26		深山茴香	ヤマウイキョウ	39950	7981	23-1	34					
27	19	壽人參		39445	7937		0164				606	
28	20	野良人參	ニンジン	39465	7941		0165	417	733	266	609	
29	21	深山川葛	チシマニンジン	39420	7935	26-1	40	414	731	266	604	290
30	22	樺太人參	イワニンジン	39440	7936	26-2	(40)	415	730		605	289
31	23	杓	コジャク	39150	7912	5-1	10	408	717	256	600	275
32	24	毒芹	オオゼリ	39360	7926	20-1	22	412	97	258	603	284
33	25	深山当帰	イワテトウキ	38780	7994	(27-13)	43	405	100	259	595	
33'		細葉当帰		39080	7996	27-14	(43)		107			
34	26	蝦夷龍草	ウラジロセンキュウ	38800	7997	(27-3)	(52)	406	104	264	596	294
35	27	大葉川葛		38910	7901	27-5	49	407	105	262	597	291
36	28	蝦夷にゅう	エソニウ	39120	7911	27-4	(52)		102	260	599	293
37	29	甘にゅう	マルハエソニウ	38890	7900	27-6	51		103	261	596	292
38	30	蝦夷猪独活	ハマウド	39380	7930	29-1	(38)	413	729	265		288
38'		蝦夷山前胡	エソヤマゼンコ	39410	7931	(29-2)	(38)			(265)		
39	31	大傘持	オニカサモチ	39750	7965	7-1	30	423	724	276	620	282
40	32	大花独活	ハナウド	39490	7946	(31-1)	(58)	419	101	270	611	297

『日本の野生植物』 / 保育社『原色日本植物図鑑・草本編』 (○は『原色日本帰化植物図鑑』)
 海道の花 / 原松次『札幌の植物』 / 鮫島・佐藤『知床半島高等植物目録』
 種番号を示した。() は見出し項目となっていないが記述のある種。

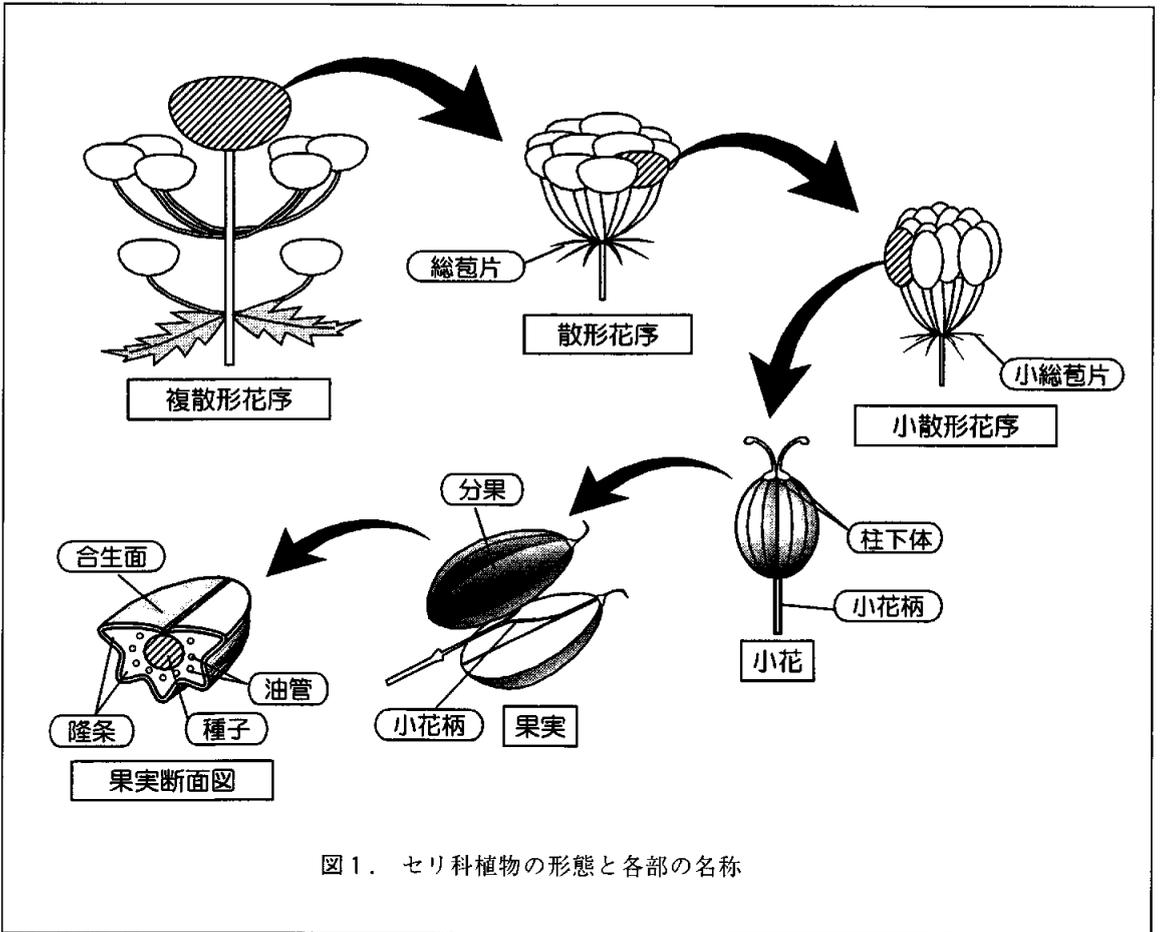


図1. セリ科植物の形態と各部の名称

葉は互生で、葉柄の下部は鞘状になって茎を抱くことが多い。

学名の「Umbelliferae」、中国語名の「傘形科」の名の通り、花序は傘型の散形花序か複散形花序で多数の花をつける。花はウマノミツバ属を除き両性花で、花弁は白色のものが多い。

3. 生態的特徴

日本に産出するセリ科は全て草本であり、また多年草（特に一稔性草）が多い。基本的には湿性の土壌を好み、非常に大型化する種も多く、エゾニュウなどは草本類としては最大クラスの3mに達する。花は基本的には昆虫媒花で、前途の通り皿型の小さな花をかさ型に多数つけた集合花序であり、ハナアブやハナカミキリなどを誘引して受粉の助けとする。両性花が多いが、雄性先熟で時間的に自家受粉を避けているものが多い。

生育環境は、海岸草原・砂浜・断崖地・森林

林床・高山帯など広範囲である。知床半島における植生調査結果を例に植生区別の出現種を見ると、表2のようにになっている。もっとも多くの種が出現したのは海岸草原で、ほとんどの大型種を含む12種が出現している。森林内では沢沿いなどを中心に5-9種が出現するが、特に低山で多く見られる。高山帯では出現種は3種のみだが、その内のシラネニンジンほとんど全ての群落で出現している。

エゾノヨロイグサ・オオカサモチ・マルバトウキの3種は海岸から森林までの広範囲で確認されている。この中でマルバトウキは一般に海岸の植物として知られるが、海岸から山地にすぐに移行する知床半島では広い植生帯で確認されている。

検索の方法

1. 従来の検索と本稿の検索方法

既存の図鑑類の検索表は、分類系統に適合

知床出現種表

表2. 知床半島の植物群落におけるセリ科植物の分布

種 番号	検索 図譜	種名	出現 群落数	海岸植生			森林植生			高山植生					
				海浜	断崖	草原	河畔林	広葉樹	針広混交	針葉樹	ダケカンバ	ハイマツ	雪田	風衝	
1		オオチドメ	1						●						
3		ホタルガイコ	2		●	●									
9	2	ウマノミツバ	2				●	●							
12	5	マルバトウキ	6	●	●	●		●	●	●					
13	6	ハマボウフウ	1	●											
14	7	カワラボウフウ	1		●										
15	8	ハクサンボウフウ	1											●	
17	10	エソボウフウ	3		●	●		●							
21	14	セリ	1			●									
22	15	ヤブジラミ	2					●	●						
23	16	ヤブニンジン	3				●	●		●					
24	17	シラネニンジン	3									●	●	●	
25	18	イブキゼリモドキ	2						●		●				
29	21	ミヤマセンキュウ	4				●		●		●			●	
30	22	カラフトニンジン	4	●	●	●				●					
31	23	シャク	4			●	●	●	●						
34	26	エソノヨロイグサ	6		●	●	●	●		●	●				
35	27	オオバセンキュウ	1											●	
36	28	エソニュウ	1			●									
37	29	アマニュウ	1			●									
38	30	エソノシシウド	3	●	●	●									
40	31	オオカサモチ	6		●	●	●	●	●	●					
41	32	オオハナウド	5			●	●	●	●		●				
出現種数				4	8	12	7	9	8	5	5	1	3	1	

※鮫島・佐藤(1981)、館脇(1954)の方形区データのほか、筆者らの調査データ〔海別岳(渡辺ほか1996)、斜里岳(丹羽・渡辺1997)、ルシャ川流域(丹羽私信)]を加えて作成した。

するように作成されていると思われるが、初学者が利用しようとするといろいろな困難にぶつかることが多い。ここでは具体的に困難点を挙げ、本稿での対応を示した。

○図鑑ではしばしば「分果柄の周囲の柔組織に結晶層がある」といった難解な用語の表現が使われるほか、「羽片は全て開出する」「茎はそれほど太くない」「翼はやや厚くて比較的狭い」などのあいまいな表現も見られ比較が難しいときがある。本稿では、検索の分岐点ではイラストを用いて比較しやすいよう努めた。

○検索に使用される部位は、属の検索では果実、種の検索では葉が用いられることが多い。表3

のように属の検索では繁殖期・繁殖個体でなければ検索不可能な分岐が75%・83%を占める。種の検索では非繁殖個体でもほとんどの検索が可能であるが、セリ科の場合1属の中に多数の種が含まれるのはシシウド属くらいで、属の検索ができればほぼ特定できる種が多い。したがって種の特定制も実質的には制限を受けることになってしまう。

本稿では葉の検索図譜と果実の検索図譜を完全に独立のものとし、どちらからでも検索できるようにした。葉の検索では補助に茎の形態・全体の形態・生息環境を用い、果実の検索では補助に花序の形態・(小)総苞片の有無を用いた。

○既存図鑑類では、果実を用いた検索の中で

表3. 既存文献の検索において判別に使用されている部位

	保育社(北村・村田,1961)		平凡社(北村,1981)	
	属の検索	種の検索	属の検索	種の検索
非繁殖器官も含む形態	8 25%	41 91%	5 17%	28 82%
花と果実の形態	5 16%	2 4%	6 20%	4 12%
果実の形態のみ	11 34%	1 2%	8 27%	0 0%
解剖した果実の形態のみ	8 25%	1 2%	11 37%	2 6%
総検索分岐数	32	45	30	34

も25%・37%が果実断面の組織的情報を必要とするものである(表3)。例えば「隆条内の維管束は発達する」「表面の細胞は凸レンズ状にふくれる」といったものである。

本稿では、果実の外形と表面の状態(毛・刺の有無など)のみで可能な限り検索が出来るようにし、困難な場合は総苞片など花序内のその他の情報を用いた。

○葉の形態を用いた検索では、「一、二回羽状複葉」「二回三出羽状複葉」といった用語で表現されるが、実際には三出羽状複葉と羽状複葉の区別が付きにくい種も多い。例えば“三出”のオオバセンキウは小葉がさらに裂け、5-9枚の羽状小葉から構成されているように見える。また、「一回羽状」という特定も難しい。これは葉のサイズでも変化がある上にどの切れ込みから回数に入ればよいのか判然としないためである。

以上の点から本稿では、葉の検索では最終裂片の形態を基本とした。先端の形状を基本に葉全体の形や茎の形を加味するようにしてある。

2. 「その1」と「その2」の区分

本図譜では道内産主要セリ科32種を「その1」「その2」の二つのグループに分けて検索を作成した。「その1」では、1.5m以上の高さになる大型種10種を対象とした。これはこれらの種が初夏から秋にかけて独特の景観をなし、一つの特徴あるグループとして認識されやすいからである。「その2」では残りの小中型種として25種を対象とし

ている(3種が両群に重複)。

その1: 高さが1.5m-3mの種。

その2: 高さが2m未満の種。

「その1」の種の内、トウヌマゼリとイブキボウフウは大型種というほど大きいわけではないが、比較のために「その1」にも含めた。

3. 葉の検索

その1では一つの検索図を用いる。上から順に線をたどり、分岐で該当する方へと進み、一番下の種名にいきつくようになっている。最下段の葉のイラストは大型のものが多いため、原寸では示していないが、葉一枚の全体像のシルエットと一つの破片の形状を示したので絵合わせに用いることができる。裂片の裂け方・毛の有無・色合い・茎の形が基本の手がかりである。また種名の下には識別の手がかりとなる主要な生育環境を略号で記した。

4. 果実の検索

葉の検索と同様に、上から順に線をたどって、一番下の種名にいきつくようになっている。最下段には果実の構造を三面図で示した。これは図2のように果実を三方から見た形状を図示したもので、分果を立体的に把握できる。常に左上に分果が並んだ状態を、右上に分果を背面から見た状態を示してあるので検索の手がかりとしていただきたい。果実の全

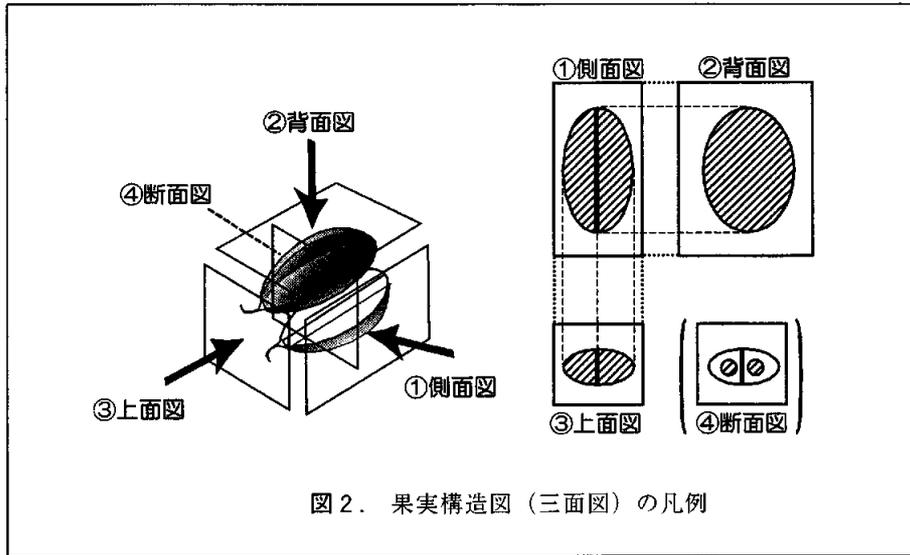


図2. 果実構造図(三面図)の凡例

体的な形、表面にある隆条の出張り具合、毛や刺の有無、(小)総苞片の有無が基本的な検索項目である。

また、果実の大きさは検索には用いていないが、参照可能なように図版の右下に示しておいた。

5. 特性一覧表

表4には対象種を一覧で示し、その分布や生育地、果実の一般的な大きさを観察と図鑑などをもとにまとめた。また識別の基準となる特徴についても比較可能なように一覧にしたので、検索図の補助に用いて欲しい。また表1には各種図鑑等での掲載番号を付記したので参照してほしい。

6. 間違いやすい組み合わせについて

○オオバセンキュウとエゾノヨロイグサ

この2種は同属の近縁種で、果実での同定は難しい。また、葉も裂片の形はよく似ており、最終裂片は細長く、単に比較しただけでは区別点が見つ

	オオバ センキュウ	エゾノ ヨロイグサ
葉の色	薄い	濃い
葉の質感	薄い・ねじれる	厚みがある
小葉の付き方	よく逆向き	順向き
茎		赤みを帯びる
開花時期	9月まで(遅い)	7-8月
小総苞片	ある	ない

に見当たらない。決定的な違いは小総苞片の有無であるが、その他の識別基準をまとめると以下のようなになる。

質感などの主観的な要素が多いが、実際の見た目では分かりやすい。

○エゾニュウ・アマニュウ・エゾノヨロイグサ

エゾニュウは葉の形に変異が大きく、裂片がつながる場合アマニュウに、細かく離れる場合エゾノヨロイグサに似ることがある。

エゾニュウは大きくなると葉・花・茎の全てが壮大で独特の雰囲気を持つ。そのような個体では大変分かりやすい。それ以外では裂片間がつながりあたかも葉軸に翼がついているかのように見える点がほとどの個体でも見られる特徴である。

○ドクゼリとヌマゼリ

どちらも湿潤な環境に多く、葉が整った羽状複葉で小葉の幅が狭い点で類似している。種子を用いれば判別は容易であるが、その他の差異点をまとめると以下のようなになる。

	ドクゼリ	トウヌマゼリ
小葉の形	細長い菱形	細長い
葉の構成	2-3回羽状	1回羽状
鋸葉	粗い	小さい・とげ状
茎	丸い	角張る・翼
根茎	太く緑色	細く赤色
総苞片	ない	ある

なお、トウヌマゼリには裂片の数が少なく幅の広いヌマゼリという変種があるとされている。

○海岸草原の大型セリ

大型のセリは表2にあるように海岸周辺の草原において複数種がまとまって見られる。出現種はエゾノヨロイグサ・エゾノシシウド・オオカサモチオオハナウド・エゾニューなどで、特に前3種が頻度が高い。この中でオオカサモチは一般の図鑑では生息環境に海岸が含まれていないが、実際にはよく見られるので注意したい。

おわりに

本稿で用いた図版は全て筆者の野外スケッチ・採集標本スケッチによるものである。また、検索図譜や表も独自に作成したもので、今後改良していきたいと考えている。誤りの指摘や改善の提案をいただければ幸いである。

謝 辞

野外におけるスケッチや標本の採集にあたっては、丹羽真一・渡辺展之・宮原由実・道川富美子の各氏に同行いただいた。丹羽さんと道川さんにはスケッチ材料となる生体標本の採取をしていただいた。また、五十嵐博さん（北海道植物研究所）には道内におけるセリ科の分布についての情報を、中井秀樹さん（北海道植物友の会）には図表のチェック・文献の提示をしていただいた。川辺百樹さん（ひがし大雪博物館）には文章の校閲をしていただいた。以上の方々に厚く感謝したい。そして、本図譜作成のために採取することによって命を奪ってしまった植物たちにこの図譜を捧げたい。

引用文献

- 原 松次（1992）札幌の植物—目録と分布表一、154頁。北大図書刊行会。
原 松次（1981, 1983）北海道植物図鑑（上・中）、271頁、279頁。噴火湾社。

- 伊藤浩司・日野間彰・中井秀樹（1985）北海道江東植物目録Ⅲ（離弁花類）、たくぎん総合研究所。
環境庁自然保護局自然環境調査室（1988）植物目録、740頁。大蔵省印刷局。
北川政夫（1982）セリ科、日本の野生植物Ⅱ（離弁花類）、276-290。平凡社。
北村四郎、村田 源（1961）セリ科、原色日本植物図鑑・草本編Ⅱ（離弁花類）、1-32。保育社。
長田武正（1976）原色日本帰化植物図鑑、425頁。保育社。
丹羽真一・渡辺 修（1997）斜里岳の植物相と植生の垂直変化、知床博物館研究報告18：51-61。
鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢 俊（1985）北海道の花。北大図書刊行会。
鮫島惇一郎・佐藤 謙（1981）知床半島現在植生図概説、64頁。北海道。
佐藤 謙（1981）知床半島の高山植生、知床半島自然生態系総合調査報告書（総説・植物篇）、123-149。北海道。
佐藤 謙（1981）知床半島の海岸植生、知床半島自然生態系総合調査報告書（総説・植物篇）、157-173。北海道。
清水建美（1982）原色新日本高山植物図鑑（Ⅰ）（Ⅱ）、保育社。
滝田謙讓（1987）セリ科、東北海道の植物、404-427。カトウ書館。
渡辺 修（1995）知床半島ツツジ科植物の検索図譜、知床博物館研究報告16：33-45。
渡辺 修・渡辺展之・和彗理央（1996）海別岳の植物、すぐれた自然地域自然環境調査報告書・道東圏域（山岳部）：3-24。北海道環境課岳研究センター。

大型種特徴表

表4. 大型セリ科(その1対象種)の一覧表

番号	種名	属名	生育地	分布		葉の特徴			花の時期	実の特徴						小繖苞片	繖片
				日本	世界	形	毛	特徴点		サイズ	形	圧迫	毛・刺	隆条	油管		
6	トウヌマゼリ	ヌマゼリ	***湿	北一本	周北極	1回羽状	-		7-9	3	卵	側	-	肋	○	○	◎
16	イブキボウフウ	イブキボウフウ	草*海*	北-近	朝鮮	2-3回羽状	○		7-8	3	卵	側	毛	肋	○	○	△
32	ドクゼリ	ドクゼリ	***湿	北-九	周北極	2-3回羽状	-	粉をふく	7-8	25	卵	側	毛	丸	○	○	△
34	エソノヨロイグサ	シシウド	草林海*	北一本n	北アジア	2-3回三出	-	厚く光沢がある・裏は白い	7-8	6	卵	背	-	肋	○	-	-
35	オオバセンキュウ	//	草林**	北一本n	西太平洋	1-2回三出	-	逆向きにつく	7-9	6	卵	背	毛	肋	○	○	-
36	エソニユウ	//	草***	北一本n	北太平洋	2-3回三出	-	変異多い	7-8	10	平	背	-	肋	○	-	-
37	アマニユウ	//	草林**	北一本n+	日本固有	1-2回三出	-	変異多い	7-8	6	卵	背	-	肋	○	-	-
38	エソノシシウド	エソノシシウド	**海*	北一本n	西太平洋	1-2回羽状	○	脈目立つ・光沢がある	6-8	8	卵	背	-	肋	○	○	△
39	オオカサモチ	オオカサモチ	草*海*	北一本n	北アジア	1-3回三出	-		6-8	7	卵	側	毛	肋	○	◎	◎
40	オオハナウド	ハナウド	草林**	北-近	北太平洋	三出	○	臭気あり	6-7	8	平	背	毛	-	○	-	-

※<生育地>は「山地草原/林内/海岸草原/湿地」の順に一字で示した。

※<分布・日本>は「北(北海道)」「本(本州)」「本n(本州北部)」「近(近畿)」「九(九州)」で示し、<世界>は清水(1982)の分布型で示した。

※<花の時期>は北海道における一般的な開花時期を月で示した。

※実の特徴は、<サイズ>は長径(mm)で、<形>は背側からの形を「丸」「卵」「長」の類型で、<圧迫>は果実の圧迫されている向きを「横」「背」で、

<隆条>は張り出し具合を「肋」「脈」「線」「一(なし)」「丸」で、<油管>は有無を「○(あり)」「- (なし)」で示した。

※<小繖苞片><繖片>は、「○(あり、◎裂ける)」「△(1本あるかない)」「- (ない)」で示した。



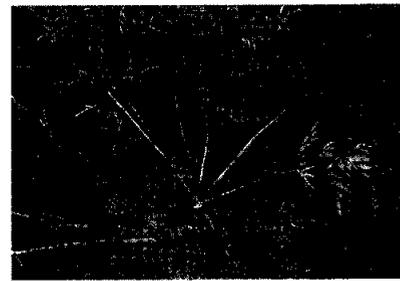
山地草原



林内



海岸草原



湿地

写真1. セリ科の生育地

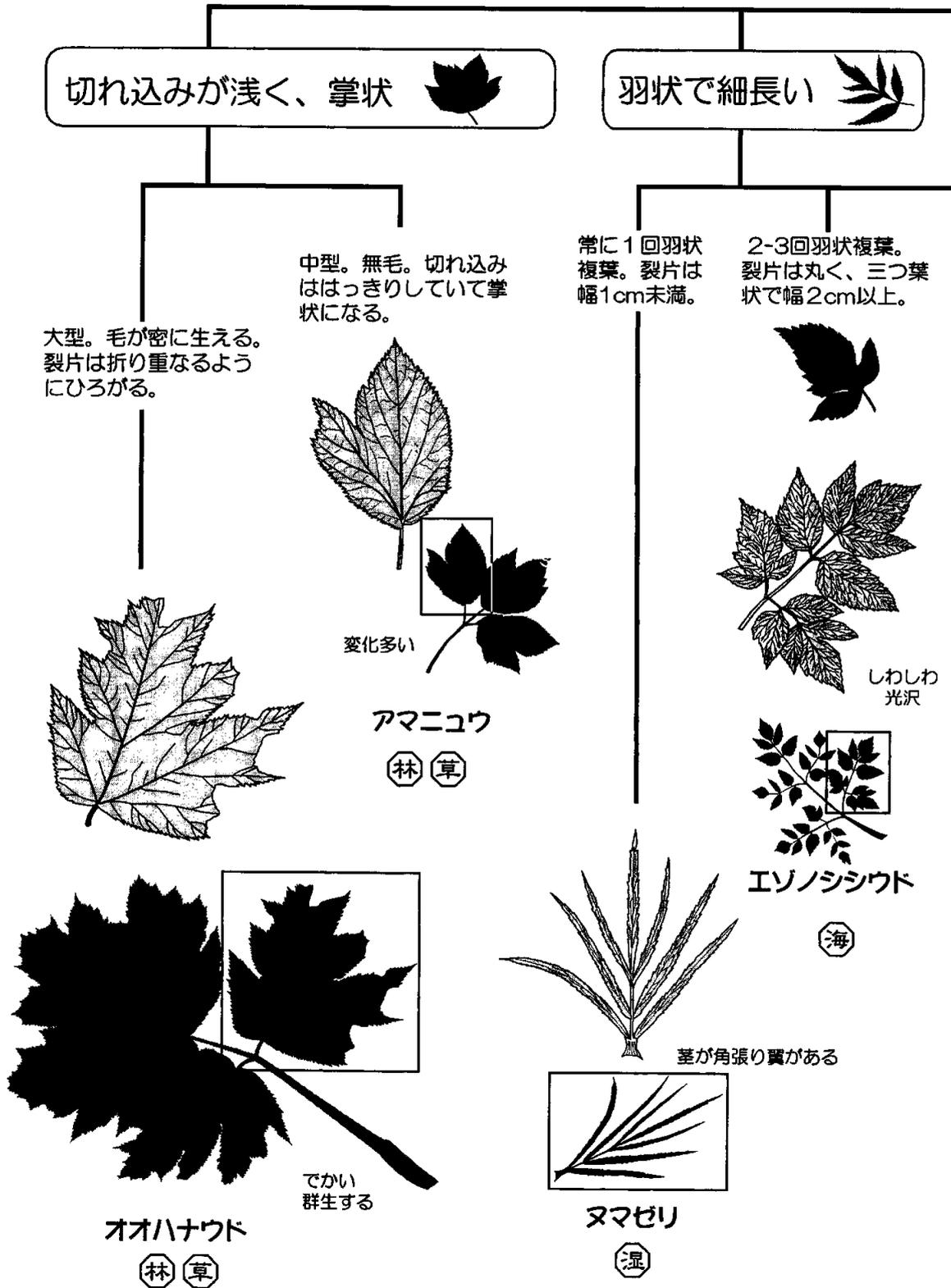


図3. 葉による検索

細かい切れ込みが入り、セリ葉となる。



2-3回羽状複葉。裂片は細長く幅2cm以上。

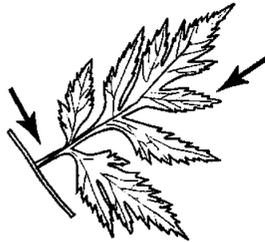


裂片同士はつながっている。縁が波打つ。



裂片は完全に独立する。縁はあまり波打たない。

裂片の先はとがり柄がある。



オオカサモチ

草海

裂片の先は丸く、柄がない。茎は稜が目立ち、直立する。



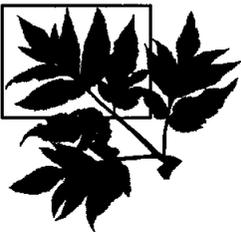
毛多い



イブキボウフウ

草海

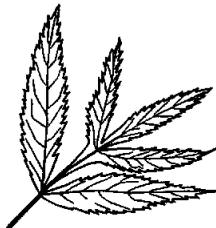
色が濃く、光沢がある。裏は白い。茎に赤みがさす。



イソニュウ

草

変化多い



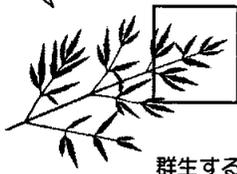
色は薄い。葉軸が折れ曲がり小葉が逆向きにつく。



オオバセンキュウ

林草

粉白色を帯びる。小葉は上向きにつき細長い。湿地に生える。



ドクゼリ

湿

群生する



イソノヨロイグサ

林草海

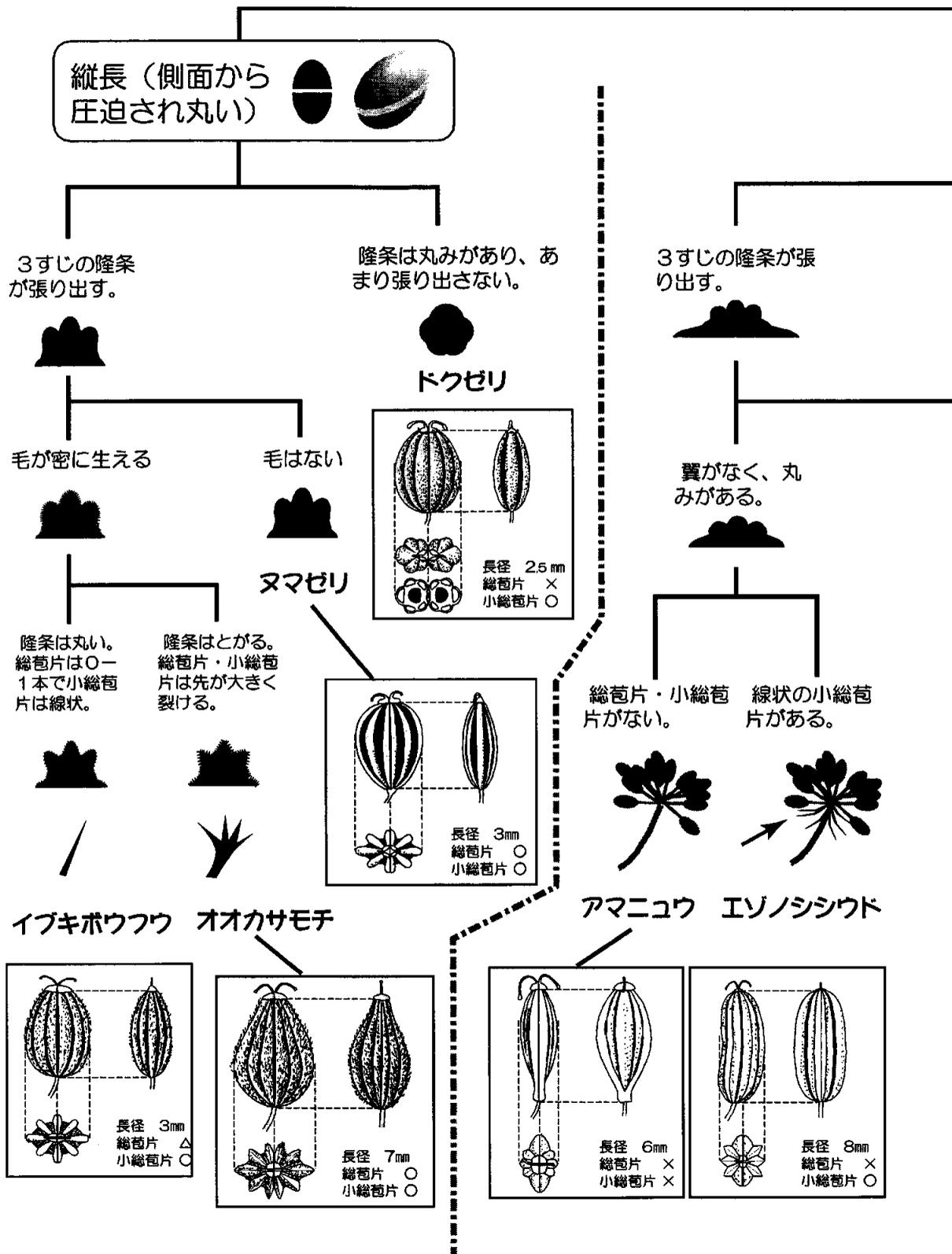


図 4. 実による検索

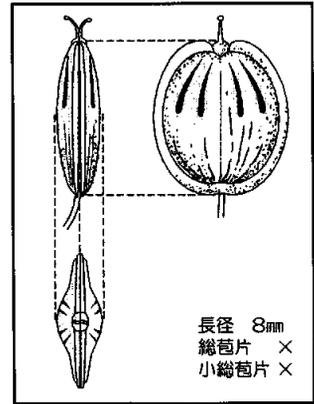
横長（背部から
圧迫され平たい）



隆条が張り出さ
ず、ほぼ平ら。



オオハナウド



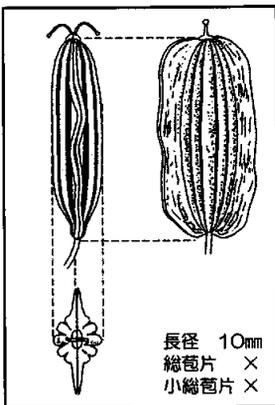
翼がある。



細長く、翼が波打
つ。種子数多い



エソニユウ



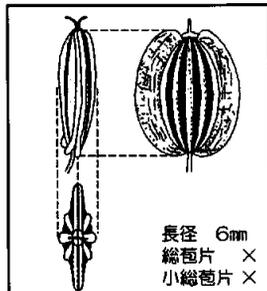
幅広く、翼はあま
り波打たない。



小総苞片がない。



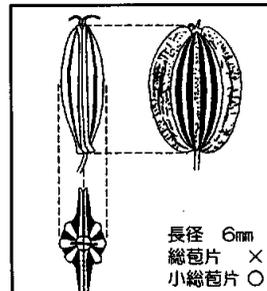
エソノヨロイグサ



小総苞片がある。



オオバセンキュウ



果実



1997. 08. 25
ウトナイ湖

葉の変化



あまり切れ込まない場合

(倍率 ×0.5)
1992. 08. 10
白樺峠

葉の変化



鋸葉は一重で大きい



(倍率 ×0.4)

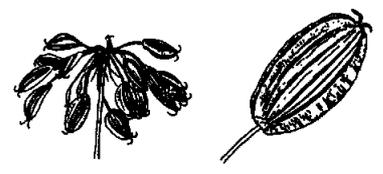
1997. 08. 25
ウトナイ湖

エゾノヨロイグサ

図5. エゾノヨロイグサの図譜とコメント

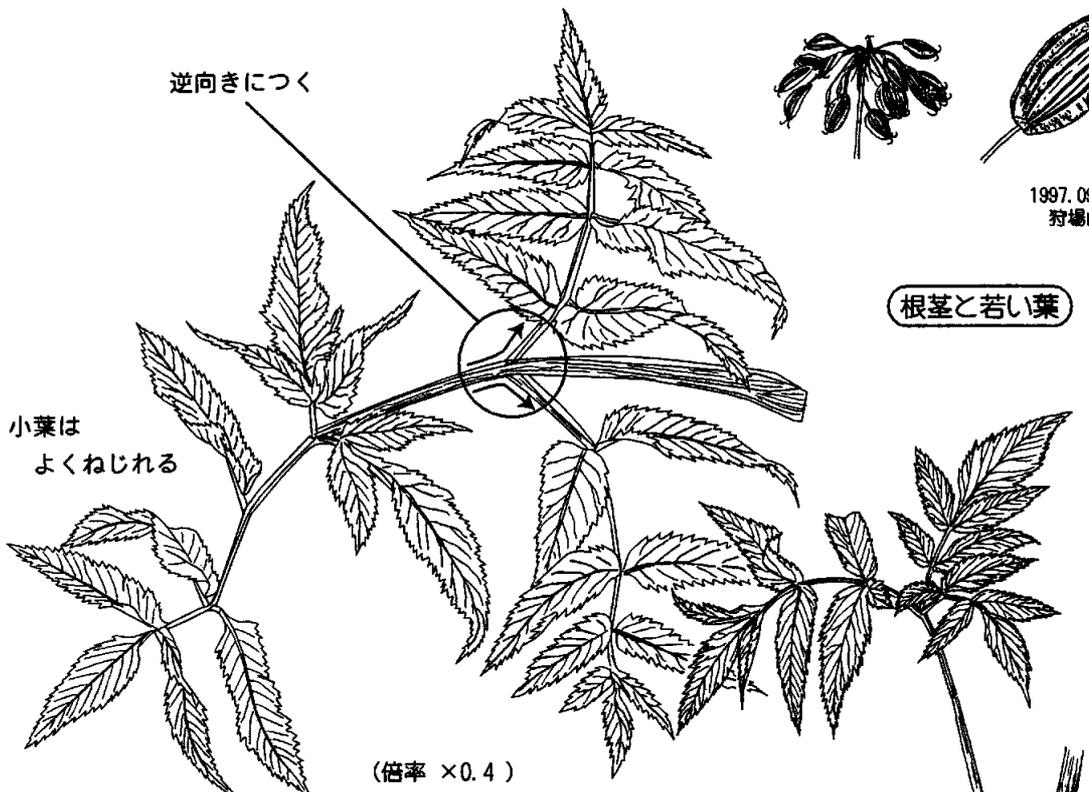
オオバセンキュウ

果実



1997. 09. 15
狩場山

根茎と若い葉



(倍率 ×0.4)
1997. 09. 03
北海道大学

(倍率 ×0.5)
1997. 09. 15
狩場山

葉の変化



(倍率 ×0.5) 1992. 08. 04
十勝三股

図6. オオバセンキュウの図譜とコメント

果実



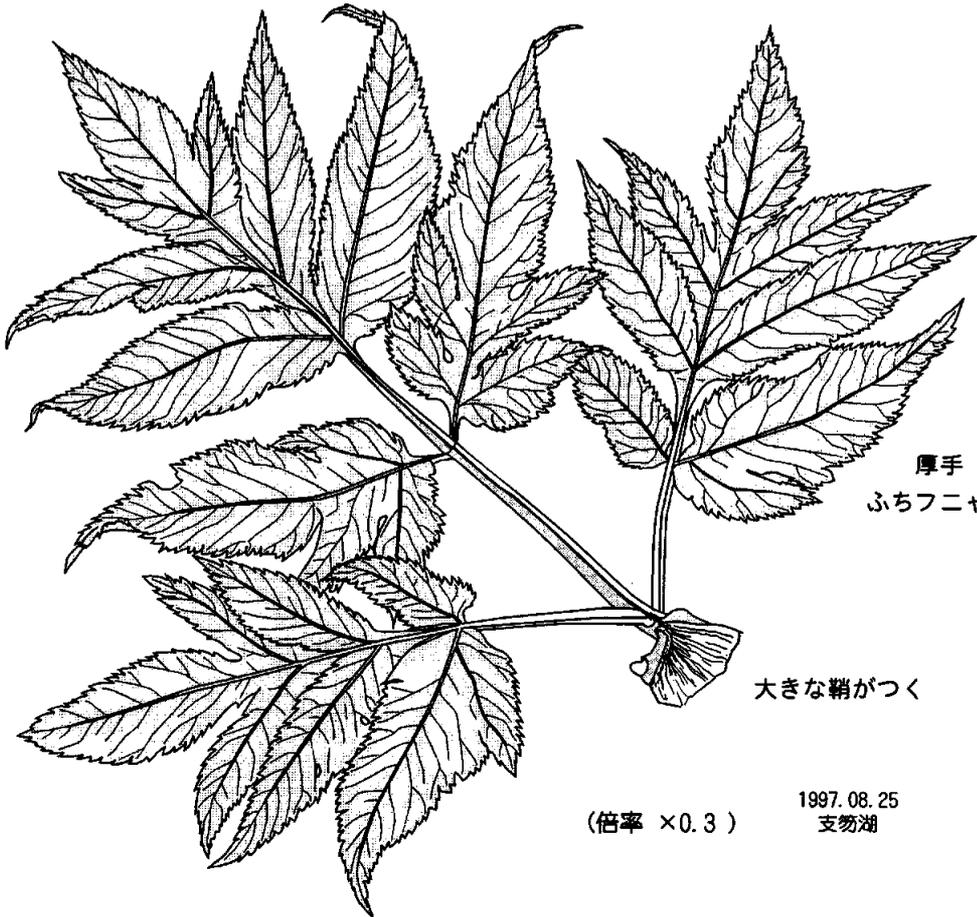
1997. 08. 25
支笏湖

葉の変化



裂片が
大きく
つながる場合

(倍率 ×0.4)
1992. 08. 10
美深峠



厚手
ふちフニヤる

大きな鞘がつく

(倍率 ×0.3)

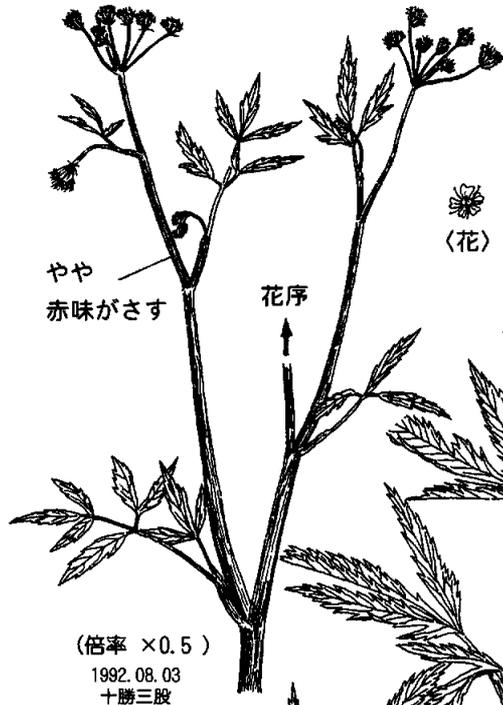
1997. 08. 25
支笏湖

エゾニュウ

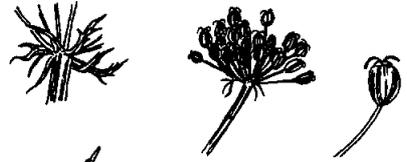
図7. エゾニュウの図譜とコメント

ドクゼリ

花序と茎の上部



果実



1997. 09. 07
石狩川 (札幌市)

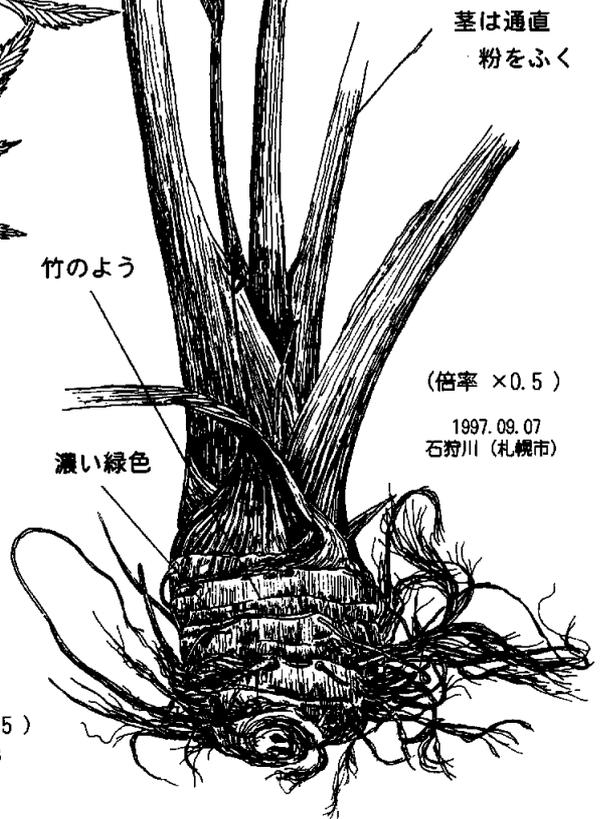
小葉はひし形

上向きにつく

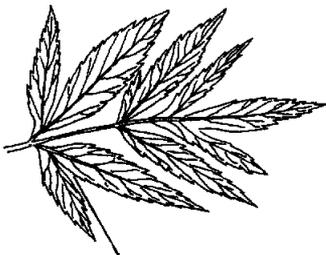


(倍率 ×0.5)
1997. 09. 07
石狩川 (札幌市)

根茎



葉の変化



よく二股に割れる

(倍率 ×0.5)
1992. 08. 03
十勝三股

図8. ドクゼリの図譜とコメント

トウヌマゼリ

花序と茎の上部

果実



総苞片



根茎



(倍率 ×0.6)
1992.09.16
十勝・湧洞沼

柄の長い葉

小葉の構成は同じ

(倍率 ×0.4)

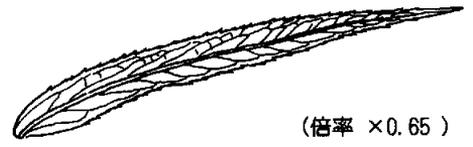


角張り
透明な翼がつく



茎の断面

葉の拡大



(倍率 ×0.65)

図9. トウヌマゼリの図譜とコメント